公益社団法人 環境科学会 2015 年会

プ ロ グ ラ ム

公 益 社 団 法 人

環 境 科 学 会

公益社団法人 環境科学会 2015 年会

日　程：　2015 年 9 月 7 日（月）～ 8 日（火）

会　場：　大阪大学　吹田キャンパス
〒 565-0871　大阪府吹田市山田丘 1-1
http://www.eng.osaka-u.ac.jp/ja/campusmap.html

交　通：　阪急電車千里線「北千里」駅　徒歩 15 分，
大阪モノレール「阪大病院前」駅　徒歩 15 分
※詳細はアクセス案内をご参照ください。

年会への参加登録：

・本年会に参加されるすべての方に「**参加登録**」が必要です。研究発表申込をされた方も参加登録を忘れずに行ってください。
・参加登録は 2 つの方法からご選択いただけますが，当日受付で現金でお支払いただくより少しお安くなっている「**事前 WEB 登録／振込払い**」がありますのでご利用ください。
・参加登録のお申込は，5 月 11 日（月）から 8 月 17 日（月）17：00 まで，下記 URL にて受付けています。

学会ホームページ：**http://www.ses.or.jp**
参加登録 URL：**http://www.pasreg.jp/reg/top/ses/participation**

・「参加登録 WEB システム」にて参加登録を行った後，自動返信メールにも記載のとおり，該当金額を下記の**郵便振替口座**へお振り込みください。
その際には，
①振込取扱票の『**通信欄**』に「**住所**」「**氏名**」「**参加申込番号**（A で始まる 6 桁の数字）」をご記入ください。
②**自動返信メールを印刷したものが「参加票」となりますので，印刷して当日受付までお持ちください。**
③振込手数料は貴殿にてご負担ください。

＊年会参加 事前振込口座＊
郵便振替口座
口座記号番号　00380-0-41183
加 入 者 名　公益社団法人 環境科学会

登録・支払方法	費　目	正会員	準会員	非会員	非会員学生
事前登録／**振込**払い	年会参加費	6,000 円	3,000 円	9,000 円	5,000 円
	交流会費	6,000 円	3,000 円	6,000 円	3,000 円
当日登録／**現金**払い	年会参加費	8,000 円	4,000 円	11,000 円	6,000 円
	交流会費	7,000 円	4,000 円	7,000 円	4,000 円

※事前登録／振込払いとは：
5 月 11 日（月）～ 8 月 17 日（月）までに参加登録と併せて，お振込済みの方に限ります。
なお，お振り込みいただいた参加費等は，返金できませんのでご留意ください。
※事前登録をいただいても期日までにお振り込みがない場合は「当日登録／現金払い」扱いになり，当日受付にて当日登録料金を現金にてお支払いただくことになりますので，ご注意ください。

交流会：　日　時：　9月7日（月）18：00 ～ 20：00
場　所：　大阪大学大学院工学研究科 GSE コモン・イースト（U1E）棟　15F
『ラ・シェーナ』
会　費：　上記をご参照ください。

【　実行委員会より重要なお知らせ　】

※本年会では，講演で使用されるパソコンは各講演者に持参していただくことに致しました。

講演会場では，セッション開始前に接続して動作確認をお願い致します。

なおプロジェクタとは RGB ケーブル（別名：ミニ D-Sub15 ピンコネクタ，VGA 端子）で接続致しますので，それ以外の接続が必要な場合には，各自で変換コネクタなどの準備をお願い致します。

※大阪大学吹田キャンパスでは現在駐車場が不足している為，自動車でのご来場はご遠慮ください。

問合せ先：

1）研究発表申込・発表要旨原稿送付・参加登録・プログラム・講演要旨集の購入・その他に関するお問い合わせ

〒 135-0006　東京都江東区常盤 2-9-7　グリーンプラザ深川常盤 201
公益社団法人 環境科学会　年会委員会／事務局
TEL：03-3634-2942　/　FAX：03-3634-2943
E-mail：nenkai2015@ses.or.jp

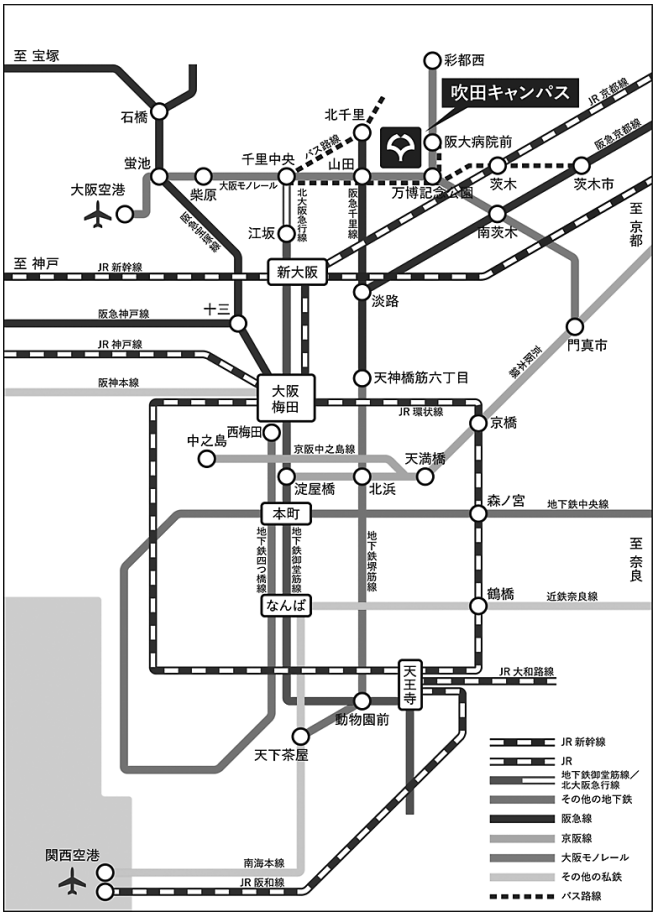
2）会場，設備等に関するお問い合わせ

環境科学会 2015 年会実行委員会
実行委員長　近藤　明（大阪大学）
幹　事　長　松井孝典（大阪大学）
E-mail：ses2015@ge.see.eng.osaka-u.ac.jp

3）入会手続きに関するお問い合わせ

公益社団法人 環境科学会　会員管理業務担当室
TEL：03-5389-6291　/　FAX：03-3368-2822
E-mail：ses-post@bunken.co.jp

大阪大学吹田キャンパスへのアクセス案内



＊お勧めのルート＊

◎新幹線・鉄道・バスをご利用の場合：

・【新大阪】･･･（地下鉄御堂筋線）→［千里中央］･･･（阪急バス）→［阪大**本部**前］→会場
14分/ 300円　⑥番のりば　13分/ 220円　徒歩10分

・【新大阪】･･･（JR 京都線）→［茨木］･･･（近鉄バス）→［阪大**本部**前］→会場
10分/220円　09時までは②番のりば　徒歩10分
10時以降は④番のりば
22分/220円

◎大阪空港（伊丹）をご利用の場合：

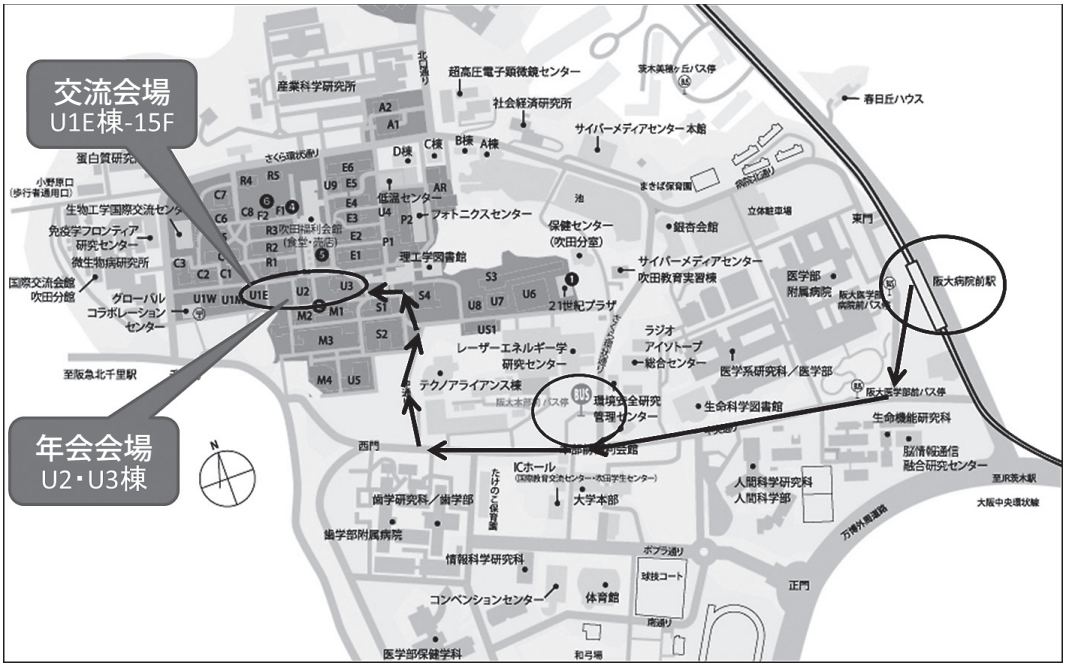
・【大阪空港】･･･（大阪モノレール）→［万博記念公園］･･･乗り換え→［阪大**病院**前］→会場
18分/430円　5分　徒歩20分

※時間が合えば，阪大病院前から阪急バスに乗り換え，阪大本部前バス停下車も可能です。

他に関西国際空港をご利用の場合：

・【関西国際空港】･･･（JR 阪和線・南海本線）→ ［大阪］･･･（地下鉄御堂筋線）→［千里中央］･･･
･･･（阪急バス）→［阪大**本部**前］→会場

吹田キャンパス案内



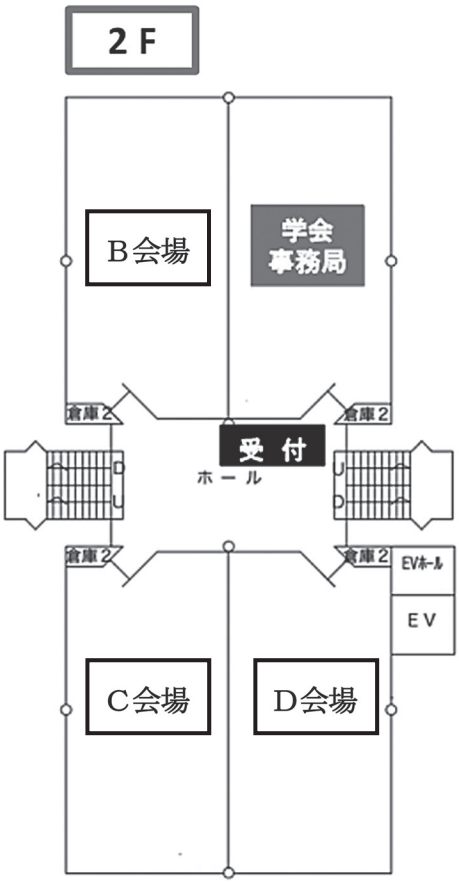
◎研究発表の会場は，2 ヶ所に分かれています。

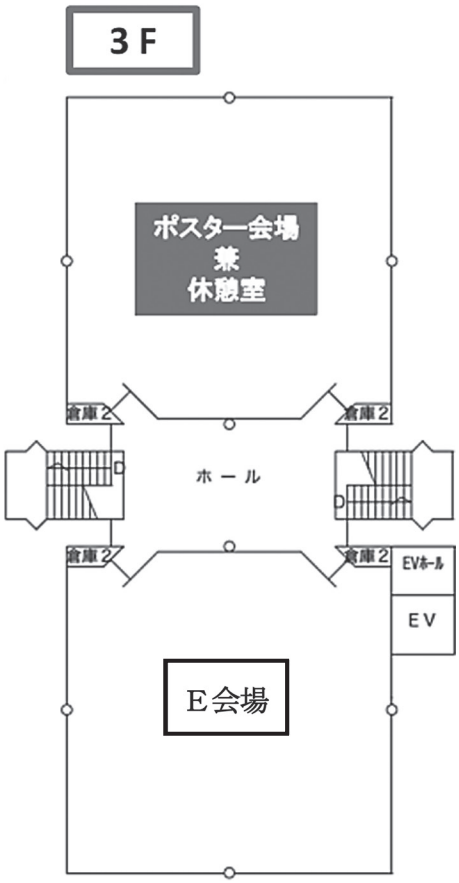
A 会場	U3 棟　1 階
B・C・D 会場	U2 棟　2 階
E 会場とポスター会場	U2 棟　3 階

◎交流会場は，U1E 棟の 15 階で行います。

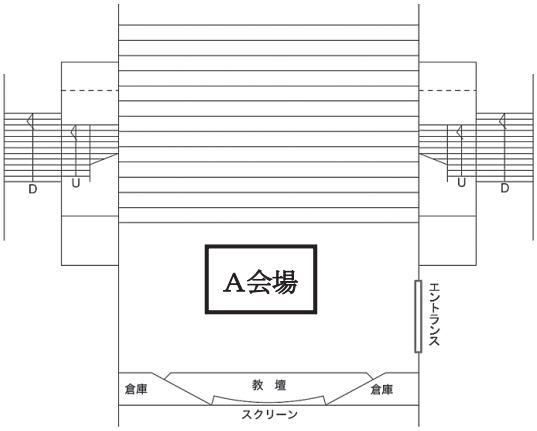
会　場　案　内

U2 棟 平面図（1 階には会場はありません）





U3 棟 平面図（こちらの会場は 1 階のみ）



発表者の方々へ

1．受　付

口頭発表，ポスター発表ならびにシンポジウム，いずれへの参加も，必ず**U2 棟 2 階の受付**にて受付手続きを行ってください。

2．発表時間

口 頭 発 表：15 分（発表 10 分，質疑応答及びパソコンの入れ替え 5 分）

ポスター発表：9 月 7 日（月）11：00 までにポスターを所定の場所に掲示してください。

ポスター発表の時間帯は：9 月 7 日（月）12：15 ～ 14：00 です。

このうち，**発表・討論のコアタイムは 9 月 7 日（月）12：30 ～ 13：30 です。**

この時間帯には，発表者は必ずポスター前にて発表を行ってください。

同時間帯に『年会優秀発表賞の審査』が行われます。以外の時間帯は自由に閲覧できます。

シンポジウム：オーガナイザーにお問い合わせください。

3．発表方法

口頭発表・シンポジウム

- **各発表会場では，プロジェクタを用意致しますが，パソコンは用意致しませんので，各自でご用意ください。**
- セッション開始前に動作確認をお願い致します。時間に余裕をもって進行にご協力ください。
- RGB ケーブル（別名：ミニ D-Sub15 ピンコネクタ，VGA 端子）で接続致しますので，それ以外の接続が必要な場合には，各自でコネクタなどの準備をお願い致します。

- OHP は用意いたしません。
- 発表時のパソコン操作は各自で行ってください。

ポスター発表

- 掲示は受付後に 9：15 から行うことができます。
- 掲示に必要な押しピンは学会事務局で用意いたします。（マグネットやテープ類は使用不可）
- ポスターは A0 サイズ（縦）以内でご用意ください。
  （使用予定のパネルは，掲示面積 W90 × H210cm です。）
- 机や電源など掲示板以外の設備の使用をご希望される場合には，**事前に**年会実行委員会までメールでお問い合わせください。当該設備をご持参いただく場合やご希望に沿えない場合もありますのでご了承ください。
- ポスターの撤去は，9 月 8 日（金）15：30 までに各自で撤去願います。
  （15：30 を過ぎても撤去されていないポスターは，年会実行委員会が撤去・廃棄しますので，ご了承ください。）

公益社団法人 環境科学会　2015 年会　プログラム

会場名		A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	P 会場
部屋番号		U3 棟 1 階	U2 棟 2 階	U2 棟 2 階	U2 棟 2 階	U2 棟 3 階	U2 棟 3 階
9月7日（月）	9：00 9：15		環境モニタリング	9：00　受付開始			
	9：30 9：45 10：00 10：15 10：30 10：45 11：00 11：15 11：30 11：45 12：00	シンポジウム 1 地域の持続可能性を支える資本ストックの未来を考える 倉阪秀史 松橋啓介 9：30 ～ 12：00	1B-0930 1B-0945 1B-1000 1B-1015 1B-1030 化学物質の分析 1B-1100 1B-1115 1B-1130 1B-1145 1B-1200	市民意識・コミュニケーション 1C-1100 1C-1115 1C-1130 1C-1145 1C-1200	シンポジウム 2 温暖化対策の新しい排出削減メカニズム：二国間クレジット制度を中心とした経済分析と展望 有村俊秀 杉野　誠 9：30 ～ 12：00	シンポジウム 3 環境インフラの連携による廃棄物からのエネルギー回収 吉田　登 中久保豊彦 9：30 ～ 12：00	ポスター発表 （閲覧のみ） ※ 11：00 までに掲示してください。
	12：15 12：30 12：45 13：00 13：15 13：30 13：45	昼休み 12：15 ～ 14：00					ポスター発表・討論 12：15 ～ 14：00 コアタイム 12：30 ～ 13：30 優秀発表賞審査・投票 14：00 〆切
	14：00 14：15 14：30 14：45 15：00 15：15 15：30 15：45 16：00 16：15	シンポジウム 4 資源価値を考慮したストック・フロー指標体系の構築 谷川寛樹・奥岡桂次郎 14：00 ～ 16：00	環境シミュレーション 1B-1400 1B-1415 1B-1430 1B-1445 1B-1500 自然環境と生態系 1B-1530 1B-1545 1B-1600 1B-1615	ライフスタイル 1C-1400 1C-1415 1C-1430 1C-1445 1C-1500	シンポジウム 5 水・エネルギー・食料連環問題の解決に向けたトランスディシプリナリー的アプローチ 馬場健司 増原直樹 14：00 ～ 16：30	シンポジウム 6 化学物質管理の今後 化学物質管理戦略研究会企画シンポジウム 小林　剛 東海明宏 14：00 ～ 16：30	ポスター発表 （閲覧のみ）
	16：30 16：45 17：00 17：15 17：30 17：45	表彰式 / 特別講演会 16：45 ～ 17：45					
	18：00	交流会（若手育成事業表彰式を含む）18：00 ～ 20：00 大阪大学大学院工学研究科 GSE コモン・イースト（U1E）棟 15 階「ラ・シェーナ」					

会場名		A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	P 会場
部屋番号		U3 棟 1 階	U2 棟 2 階	U2 棟 2 階	U2 棟 2 階	U2 棟 3 階	U2 棟 3 階
9月8日（火）	9：00 9：15		一次産業と食品	9：00　受付開始			
	9：30 9：45 10：00 10：15 10：30 10：45 11：00 11：15 11：30 11：45 12：00	シンポジウム 7 レジリエントシティ政策モデルの開発とその実装化 竹内恒夫 杉山範子 9：30 ～ 12：00	2B-0930 2B-0945 2B-1000 2B-1015 2B-1030 廃棄物・排水処理 2B-1100 2B-1115 2B-1130 2B-1145 2B-1200	再生可能エネルギー 2C-1100 2C-1115 2C-1130 2C-1145 2C-1200	シンポジウム 8 バイオマス残渣リサイクルによるプランテーションの持続性と生産性向上の検証 藤江幸一 橘　隆一 9：30 ～ 12：00	シンポジウム 9 室内環境中の臭素系・リン系難燃剤の現状と課題 雨谷敬史 三宅祐一 9：30 ～ 12：00	ポスター発表 （閲覧のみ）
	12：15 12：30 12：45 13：00 13：15	昼休み 12：15 ～ 13：30					
	13：30 13：45 14：00 14：15 14：30 14：45 15：00 15：15 15：30 15：45 16：00	シンポジウム 10 環境政策研究者は社会変革をもたらしうるか 学術賞記念シンポジウム 中口毅博 山本芳華 13：30 ～ 16：15	環境リスク 2B-1330 2B-1345 2B-1400 2B-1415 2B-1430 環境指標・政策 2B-1500 2B-1515 2B-1530 2B-1545 2B-1600	環境経済・政策 2C-1330 2C-1345 2C-1400 2C-1415 2C-1430	シンポジウム 11 低炭素型ライフスタイルの実現に向けた都市・地域環境に関する各分野の事例 平野勇二郎 松野正太郎 13：30 ～ 16：00	シンポジウム 12 地域・伝統知と科学知の融合を活かしたアジア太平洋地域における社会・生態システムの将来シナリオとガバナンス 実行委員会企画 シンポジウム 齊藤　修・谷川寛樹 13：30 ～ 16：00	※ 15：00 までに撤去してください。
	16：15 16：30 16：45	後片付け					

公益社団法人 環境科学会　2015 年会　座長一覧

	会場名	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	P 会場
	部屋番号	U3 棟 1 階	U2 棟 2 階	U2 棟 2 階	U2 棟 2 階	U2 棟 3 階	U2 棟 3 階
9月7日（月）	9：00 9：15	9：00　受付開始					
	9：30 9：45 10：00 10：15 10：30 10：45 11：00 11：15 11：30 11：45 12：00	シンポジウム 1 地域の持続可能性を支える資本ストックの未来を考える 倉阪秀史 松橋啓介 9：30 ～ 12：00	□頭発表 1B-1 環境モニタリング 9：30 ～ 10：45 **高梨啓和** □頭発表 1B-2 化学物質の分析 11：00 ～ 12：15 **小林　剛**	□頭発表 1C-2 市民意識・コミュニケーション 11：00 ～ 12：15 **中谷　隼**	シンポジウム 2 温暖化対策の新しい排出削減メカニズム：二国間クレジット制度を中心とした経済分析と展望 有村俊秀 杉野　誠 9：30 ～ 12：00	シンポジウム 3 環境インフラの連携による廃棄物からのエネルギー回収 吉田　登 中久保豊彦 9：30 ～ 12：00	ポスター発表 （閲覧のみ） ※ 11：00 までに掲示してください。
	12：15 12：30 12：45 13：00 13：15 13：30 13：45	昼休み 12：15 ～ 14：00					ポスター発表・討論 12：15 ～ 14：00 コアタイム 12：30 ～ 13：30 優秀発表賞審査・投票 14：00 〆切
	14：00 14：15 14：30 14：45 15：00 15：15 15：30 15：45 16：00 16：15 16：30 16：45 17：00 17：15 17：30 17：45	シンポジウム 4 資源価値を考慮したストック・フロー指標体系の構築 谷川寛樹・奥岡桂次郎 14：00 ～ 16：00 表彰式 / 特別講演会 16：45 ～ 17：45	□頭発表 1B-3 環境シミュレーション 14：00 ～ 15：15 **平野勇二郎** □頭発表 1B-4 自然環境と生態系 15：30 ～ 16：30 **橘　隆一**	□頭発表 1C-3 ライフスタイル 14：00 ～ 15：15 **松橋啓介**	シンポジウム 5 水・エネルギー・食料連環問題の解決に向けたトランスディシプリナリー的アプローチ 馬場健司 増原直樹 14：00 ～ 16：30	シンポジウム 6 化学物質管理の今後 化学物質管理戦略研究会企画シンポジウム 小林　剛 東海明宏 14：00 ～ 16：30	ポスター発表 （閲覧のみ）
	18：00	交流会（若手育成事業表彰式を含む）18：00 ～ 20：00 大阪大学大学院工学研究科 GSE コモン・イースト（U1E）棟 15 階「ラ・シェーナ」					

	会場名	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	P 会場
	部屋番号	U3 棟 1 階	U2 棟 2 階	U2 棟 2 階	U2 棟 2 階	U2 棟 3 階	U2 棟 3 階
9月8日（火）	9：00 9：15	9：00　受付開始					
	9：30 9：45 10：00 10：15 10：30 10：45 11：00 11：15 11：30 11：45 12：00	シンポジウム 7 レジリエントシティ政策モデルの開発とその実装化 竹内恒夫 杉山範子 9：30 ～ 12：00	□頭発表 2B-1 一次産業と食品 9：30 ～ 10：45 **田畑智博** □頭発表 2B-2 廃棄物・排水処理 11：00 ～ 12：15 **山本祐吾**	□頭発表 2C-2 再生可能エネルギー 11：00 ～ 12：15 **島崎洋一**	シンポジウム 8 バイオマス残渣リサイクルによるプランテーションの持続性と生産性向上の検証 藤江幸一 橘　隆一 9：30 ～ 12：00	シンポジウム 9 室内環境中の臭素系・リン系難燃剤の現状と課題 雨谷敬史 三宅祐一 9：30 ～ 12：00	ポスター発表 （閲覧のみ）
	12：15 12：30 12：45 13：00 13：15	昼休み 12：15 ～ 13：30					
	13：30 13：45 14：00 14：15 14：30 14：45 15：00 15：15 15：30 15：45 16：00	シンポジウム 10 環境政策研究者は社会変革をもたらしうるか 学術賞記念シンポジウム 中口毅博 山本芳華 13：30 ～ 16：15	□頭発表 2B-3 環境リスク 13：30 ～ 14：45 **村上道夫** □頭発表 2B-4 環境指標・政策 15：00 ～ 16：15 **田崎智宏**	□頭発表 2C-3 環境経済・政策 13：30 ～ 14：45 **有村俊秀**	シンポジウム 11 低炭素型ライフスタイルの実現に向けた都市・地域環境に関する各分野の事例 平野勇二郎 松野正太郎 13：30 ～ 16：00	シンポジウム 12 地域・伝統知と科学知の融合を活かしたアジア太平洋地域における社会・生態システムの将来シナリオとガバナンス実行委員会企画シンポジウム 齊藤　修・谷川寛樹 13：30 ～ 16：00	※ 15：00 までに撤去してください。
	16：15 16：30 16：45	後片付け					

口 頭 発 表

【第１日目（9月7日）午　前】

B 会場（U2 棟２階）口頭発表 1B-1　環境モニタリング（9：30 ～ 10：45）

座　長：　高梨啓和（鹿児島大学）

1B-0930　常時監視測定局の適正配置に関する検討
○岩橋香季，荒木　真，嶋寺　光，近藤　明（大阪大学），山本浩平（京都大学）

1B-0945　ボーリングコアサンプルの熱伝導率の温度依存性
○坂口　巌（埼玉大学, JST-CREST），望月秀俊（農研機構），斎藤健志, 川本　健, 小松登志子（埼玉大学，JST-CREST）

1B-1000　水質プロフィールによる多摩西部と八王子湧水の検討
○松塚雅博（杏林大学），石川友美（静岡県生活科学検査センター），関　健介，金子哲也（杏林大学）

1B-1015　有害性懸念のある半揮発性有機化合物の水中検出マトリクス
○三保紗織，飯束敏泰，大橋拓未，鈴木拓万，亀屋隆志（横浜国立大学）

1B-1030　河川水における半難揮発性工業化学品分解生成物の環境中残留性調査
○鈴木拓万, 三保紗織，亀屋隆志（横浜国立大学）

B 会場（U2 棟２階）口頭発表 1B-2　化学物質の分析（11：00 ～ 12：15）

座　長：　小林　剛（横浜国立大学）

1B-1100　人工甘味料と工業化学品の一斉固相抽出分析法の検討
○飯束敏泰，大橋拓未，鈴木拓万, 三保紗織，亀屋隆志（横浜国立大学）

1B-1115　高頻度検出される医薬品の分析　―PRTR 物質一斉検出との比較―
○大橋拓未，飯束敏泰，鈴木拓万, 三保紗織，亀屋隆志（横浜国立大学）

1B-1130　ネオニコチノイド系農薬ジノテフランの環境変化体の探索
○高梨啓和，有島由紀子，橋本扶美，中島常憲，大木　章，上田岳彦，門川淳一（鹿児島大学），宮本信一，石川英律（いであ（株））

1B-1145　農薬環境変化体の環境モニタリング～親農薬と変化体のリスク比較～
○橋本扶美，有島由紀子，高梨啓和，中島常憲，大木　章，上田岳彦，門川淳一（鹿児島大学），宮本信一，石川英律（いであ（株））

1B-1200　水道水中の GC/MS 分析対象農薬の LC/MS/MS 一斉分析法の検討
○小林憲弘，久保田領志，五十嵐良明（国立医薬品食品衛生研究所）

C 会場（U2 棟２階）口頭発表 1C-2　市民意識・コミュニケーション（11：00 ～ 12：15）

座　長：　中谷　隼（東京大学）

1C-1100　オンライン熟議実験を用いた木質バイオマスの利活用を巡るステークホルダーの態度変容分析
○馬場健司（法政大学），松浦正浩（東京大学）

1C-1115　環境に関する社会コミュニケーションの理論と実践
○多田　満（国立環境研究所）

1C-1130　社会貢献型パソコンリユース事業に対する価値認識：協力事業者と一般事業者の比較から
○小島英子，田崎智宏（国立環境研究所），加山俊也，松岡夏子（三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング）

1C-1145　柏市内の市民活動団体のボランティアのニーズと情報システム利用状況調査
○白木佑典, 前田恭伸（静岡大学），犬塚裕雅（CAT），森　保文（国立環境研究所），杉浦正吾（杉浦環境プロジェクト），淺野敏久（広島大学）

1C-1200　生産地による食品リスク認知構造の違いの把握と個人の特性による影響
○白井浩介，栗栖聖，花木啓祐（東京大学）

【第１日目（9月7日）午　後】

B 会場（U2 棟２階）口頭発表　1B-3　環境シミュレーション（14：00 ～ 15：15）

座　長：　平野勇二郎（国立環境研究所）

1B-1400　**奨励賞受賞記念講演：**GIS とリモートセンシングを活用した都市気候の人為的変化に関する研究
○白木洋平（立正大学）

1B-1415　ストリートキャニオンの構成が屋外熱環境と流れ場に与える影響に関する研究
○一ノ瀬俊明（国立環境研究所，名古屋大学），林　　曄（国立環境研究所）

1B-1430　大気中における粒子状ホウ素の濃度と同位体比の変動
○坂田昌弘，石川友美，Phan Hang Giang，光延　聖（静岡県立大学）

1B-1445　One Box 型マルチメディアモデルを用いた鉛濃度のモンテカルロシミュレーション
○日岡佑介，嶋寺　光，近藤　明（大阪大学）

1B-1500　MaxEnt を用いた秋田県におけるツキノワグマ人身事故の要因・リスク分析と将来予測
○町村　尚，藤本直也，松井孝典（大阪大学）

B 会場（U2 棟２階）口頭発表　1B-4　自然環境と生態系（15：30 ～ 16：30）

座　長：　橘　隆一（東京農業大学）

1B-1530　**論文賞受賞記念講演：**1971 年から 2011 年の渡良瀬川河川水の高濁度時における濁度，懸濁物質及び重金属濃度の推移
○齋藤陽一（桐生市水道局，群馬大学），森　勝伸，角田欣一，板橋英之（群馬大学）

1B-1545　大阪府内の 2 つの歴史的森林の衰退と土壌化学性の劣化
○伊藤和男，直川新也，福島　航（大阪府立大学高専）

1B-1600　Development of a Sustainability Assessment Framework for Regional Scale Integrated Coastal Zone Management (ICZM)
Uehara Takuro，○ Niu Jia，Chen Xiaochen (Ritsumeikan University), Ota Takahiro (Nagasaki University)

1B-1615　ウェザージェネレータによる気象値の再現性が生態系プロセスモデルを用いた森林生態系機能予測に与える影響の評価
○宮内達也，町村　尚（大阪大学）

C 会場（U2 棟２階）口頭発表　1C-3　ライフスタイル（14：00 ～ 15：15）

座　長：　松橋啓介（国立環境研究所）

1C-1400　**奨励賞受賞記念講演：**家庭からの環境負荷のモデル推計と持続可能なライフスタイルに関する研究
○金森有子（国立環境研究所）

1C-1415　**優秀研究企画賞受賞記念講演：**1964 年と 2020 年の家電製品とライフスタイルを題材にした環境学習指導案の開発
○島崎洋一（山梨大学）

1C-1430　2030 年の日本のライフスタイルシナリオに関する一般市民の認識
○吉田　綾，田崎智宏，青柳みどり，金森有子（国立環境研究所）

1C-1445　オントロジー工学に基づく心豊かなライフスタイルの明示化への考察
○岸上祐子，古川柳蔵（東北大学），溝口理一郎（北陸先端技術大学院大学），須藤祐子（東北大学）

1C-1500　高齢期の住まい方に着目した高齢世帯のエネルギー消費量推計について
○金森有子，有賀敏典，松橋啓介（国立環境研究所）

【第２日目（９月８日）午　前】

Ｂ会場（U2 棟２階）口頭発表　2B-1　一次産業と食品（9：30 ～ 10：45）

座　長：　田畑智博（神戸大学）

2B-0930　**論文賞受賞記念講演：**都市化が地域窒素収支に及ぼす影響評価と対策提案
○劉　　晨（地球環境戦略研究機構），林　良嗣（名古屋大学），安成哲三（総合地球環境学研究所）

2B-0945　ドローンの農漁業への利用による環境負荷低減策の提案
○松村寛一郎（東京農業大学），泉　岳樹（首都大学東京）

2B-1000　北海道における畑作４品目の作柄指標予測
○松村寛一郎（東京農業大学），井上　聡（農研機構），杉本賢二（名古屋大学）

2B-1015　総エネルギー消費量を用いた最終消費における世界の食品廃棄量の推計
○棟居洋介（東京工業大学），増井利彦（国立環境研究所）

2B-1030　生態系プロセスモデルへの森林施業・密度管理の実装とそれを用いた森林生態系サービス評価
○古林知哉，町村　尚，宮内達也，近藤翔伍，松井孝典（大阪大学）

Ｂ会場（U2 棟２階）口頭発表　2B-2　廃棄物・排水処理（11：00 ～ 12：15）

座　長：　山本祐吾（和歌山大学）

2B-1100　微生物触媒を使った排水の再利用の検討
○桐谷久恵，砂田香矢乃，弥永　都，橋本和仁（東京大学）

2B-1115　可溶化菌を用いた BDF 排水処理の確立
○渡邉励人（鈴鹿高等工業専門学校），中道隆広（長崎総合科学大学），甲斐穂高（鈴鹿高等工業専門学校），石橋康弘（熊本県立大学）

2B-1130　食品廃棄物を利用した植物修復促進剤の開発
○秦野賢一，山津健司，角田欣一，窪田健二，若松　馨（群馬大学）

2B-1145　人口減少とリサイクルの進展を見据えた一般廃棄物焼却施設の統合による環境・経済面の効果推計
○田崎智宏，稲葉陸太，藤井　実（国立環境研究所），山口直久（エックス都市研究所）

2B-1200　途上国へのリサイクル産業集積の要因分析
○小山祥太郎，村上進亮（東京大学）

Ｃ会場（U2 棟２階）口頭発表　2C-2　再生可能エネルギー（11：00 ～ 12：15）

座　長：　島崎洋一（山梨大学）

2C-1100　埼玉県秩父市における木質バイオマス発電事業の事業性評価
○本間早也香，小泉貴之，大村健太，小野田弘士（早稲田大学）

2C-1115　未利用木質バイオマスのストーブ利用に関する有効性評価
牟田諒太，○松本　亨（北九州市立大学），中坊　真（九州バイオマスフォーラム）

2C-1130　再生可能エネルギーの導入による地域社会の構造的再生に関する理論的枠組みの設定と事例分析
○白井信雄（法政大学），壽福眞美，谷口信雄

2C-1145　富山県におけるエネルギーシステム最適化モデルの開発
○浦　和哉（富山県立大学）

2C-1200　東京電力管内における地域特性を考慮した分散型電源の導入評価及び電源計画への影響分析
○今野伊吹（東京工業大学），森　俊介（東京理科大学），増井利彦（東京工業大学）

【第２日目（９月８日）午　後】

Ｂ会場（U2 棟２階）口頭発表　2B-3　環境リスク（13：30 ～ 14：45）

座　長：　村上道夫（福島県立医科大学）

2B-1330　**論文賞受賞記念講演：**臭素系難燃剤ヘキサブロモシクロドデカンの多媒体環境動態モデルを用いた曝露評価の紹介と今後の課題
○岩田智秀（元・横浜国立大学），中井里史（横浜国立大学）

2B-1345　多変量解析と高分解能質量分析による変異原の探索
○高梨啓和, 浜　知広, 中島常憲, 大木　章, 上田岳彦（鹿児島大学）, 亀屋隆志（横浜国立大学），近藤貴志，松下　拓（北海道大学）

2B-1400　福島第一原子力発電所事故による群馬県赤城大沼の放射性セシウム汚染
○角田欣一，相澤省一，森　勝伸，斎藤陽一，阿部隼司，伊藤結衣子（群馬大学），鈴木究真，湯浅由美，渡辺　峻，新井　肇，田中英樹，久下敏宏（群馬県水産試験場），野原精一（国立環境研究所），薬袋佳孝（武蔵大学），岡田往子，村上公一，今川　峻（東京都市大学），長尾誠也（金沢大学）

2B-1415　室内環境中に含まれる有機リン系及び臭素系難燃剤の一斉分析
○中山勇人，三宅祐一，雨谷敬史（静岡県立大学）

2B-1430　室内で使われる化学物質の吸入曝露を考慮したリスクスクリーニング手法 ―殺虫・防虫剤を例として―
○富澤茉佑香，高橋裕美子，小林　剛，亀屋隆志，藤江幸一（横浜国立大学）

B 会場（U2 棟 2 階）口頭発表　2B-4　環境指標・政策（15：00 ～ 16：15）

座　長：　田崎智宏（国立環境研究所）

2B-1500　**優秀研究企画賞受賞記念講演：**リスク評価における新たな試み～リスクトレードオフ解析への主観的幸福度の適用～
○村上道夫（福島県立医科大学），小野恭子（産業技術総合研究所），坪倉正治（東京大学，南相馬市立総合病院）

2B-1515　持続可能な地域社会の構築に向けた自治体の属性に応じた指標群の提案
○畠山岳大，竹内恒夫（名古屋大学）

2B-1530　農業従事者や農村居住者の気候変動適応策に対する選好や関与意向およびその規定因
○馬場健司（法政大学），河合裕子（東京大学），小杉素子（静岡大学），田中充（法政大学）

2B-1545　眞・善・美の価値観によるまちづくり指標作成の試み
○原田茂樹（宮城大学），清水美和（第一生命），大野菜穂子（宮城大学）

2B-1600　デカップリング状態の分類における質と程度の概念
○高井　亨（鳥取環境大学）

C 会場（U2 棟 2 階）口頭発表　2C-3　環境経済・政策（13：30 ～ 14：45）

座　長：　有村俊秀（早稲田大学）

2C-1330　**奨励賞受賞記念講演：**自動車排ガス抑制規制に対する定量的政策評価
○岩田和之（高崎経済大学）

2C-1345　Contribution of Agricultural Investments to Stabilizing International Rice Price Volatility under Climate Change
○ Koizumi Tatsuji（Policy Research Institute）

2C-1400　将来世代の視点からの課題認識パターンと優先順位化に関する考察 - オンラインアンケート調査の分析から
○原圭史郎（大阪大学），西條辰義（一橋大学），栗本修滋（大阪大学），木下裕介（産業技術総合研究所），上須道徳，渕上ゆかり（大阪大学）

2C-1415　気候変動影響適応のための資金メカニズムにおける衡平性
○久保田泉（国立環境研究所）

2C-1430　産廃税及び建設排出抑制施策の排出抑制複合効果の分析
○後藤正樹（山梨大学）

ポスター発表（優秀発表賞応募発表を含む）

掲示可能期間：９月７日（月）９：００～８日（火）１５：００（15：00 までに各自にて撤去願います）
※７日（月）11：00 までに，ポスターを所定の場所に掲示してください。
※８日（火）15：00 を過ぎても撤去されていないポスターは，年会実行委員会が撤去・廃棄しますので，ご了承ください。

発表・討論時間：９月７日（月）12:15～14:00（うち，**12:30～13:30** は「コアタイム」とします）
※掲示期間中，ポスターは自由に閲覧することができますが，７日（月）昼の時間帯を発表・討論時間として設定しています。「コアタイム」には，発表者は必ずポスター前にて発表を行ってください。

P-01　モンゴル国のモータリゼーションに起因する重金属汚染の現状と遊牧業への影響
○戸敷浩介，内藤博敬（静岡県立大学），劉　庭秀（東北大学），Choijilsuren Buyantogtokh (Institute of Veterinary Medicine, Mongolia)，Baatar Erdenedalai (Eco International LLC)，齋藤優子（東北大学，日本学術振興会）

P-02　自動車への CFRP 材料導入に伴うリスクトレードオフ評価の研究枠組の検討
○本地祐也，東海明宏（大阪大学）

P-03　食品健康影響評価結果に対するパブリックコメントのテキストマイニングによる情報ニーズの抽出
○畑田智彦（大阪大学），山口治子（医薬品食品衛生研究所），東海明宏（大阪大学）

P-04　家庭用耐久消費財に由来する災害廃棄物発生ポテンシャルの推計
○田畑智博（神戸大学），張欧，山中優奈（元・神戸大学），蔡　佩宜（神戸大学）

P-05　多属性効用関数法を用いたバイオ燃料導入政策の評価
○轟　晃成，東海明宏（大阪大学）

P-06　愛知県名古屋市における空閑地緑化による熱環境緩和効果
○大西暁生（東京都市大学），高平洋祐（日本経済研究所），佐尾博志（東京都市大学），森杉雅史（名城大学）

P-07　チャンバーを用いた製品使用時に発生するナノ粒子曝露量評価手法
○加藤伸之，松井康人（京都大学）

P-08　溶剤系塗料から水系塗料への物質代替における労働暴露評価
○柴谷一平，東海明宏（大阪大学），山口治子（医薬品食品衛生研究所）

P-09　A Model-based Study on Pesticide Dynamics to Reduce Pesticide Residues in Japanese Green Tea
○ Ibnu Susanto (Osaka University)

P-10　Weather Variability and Dengue Hemorrhagic Fever in Jakarta, Indonesia
○ Nasir Narila Mutia（大阪大学）

P-11　A Development of Mobile Monitoring System for Urban Climatology
○ Ichinose Toshiaki (National Institute for Environmental Studies，Nagoya University), Likhvar Victoria (National Institute for Environmental Studies)

P-12　将来の社会状況下における南海トラフ巨大地震による住宅地被害額の推計―三重県のケース―
○佐尾博志，牧　歩嵩，前田真佐樹，大西暁生（東京都市大学）

P-13 The Impact of the Transatlantic Trade and Investment Partnership on Greenhouse Gas Emissions
○ Akahori Hirokazu，Yamamoto Yasutaka (Hokkaido University)

P-14 The Development of a Heat Wave Vulnerability Index for Osaka, Japan
○ Macnee Robert（大阪大学）

P-15 Climate Change Impact and Mitigation Assessment on Hydropower：Model-Based Analysis
○ Zhou Qian, Hanasaki Naota, Fujimori Shinichiro, Masaki Yoshimitsu, Hijioka Yasuaki (National Institute for Environmental Studies)

P-16 Future Estimation for Total Material Requirement for Vehicle Manufacturing
○ Bin Azmi Muhammad（大阪大学）

P-17 有害性懸念のある半揮発性有機化合物の水中検出マトリクス
○三保紗織，飯束敏泰，大橋拓未，鈴木拓万，亀屋隆志（横浜国立大学）

P-18 車室内ダスト中の指標元素を利用した FE-EPMA による汚染物質のスクリーニングと起源解析
○徳村雅弘，山取由樹，根岸洋一，益永茂樹（横浜国立大学）

P-19 地形変化を伴う人為的撹拌に関する研究
○吉田圭介，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-20 造成地土壌の都市生態系基盤としての機能評価
○木田仁廣，松平隼人，小澤有貴，森下瑞貴，宮島聖也，大里陽一，渡邊眞紀子，川東正幸（首都大学東京）

P-21 ウェザージェネレータによる気象値の再現性が生態系プロセスモデルを用いた森林生態系機能予測に与える影響の評価
○宮内達也，町村　尚（大阪大学）

P-22 食品業界における環境保全コストと CO_2 削減効果の比較
○柳原彩乃，二渡　了，加藤尊秋（北九州市立大学）

P-23 低物質・低炭素化に向けた都道府県別土石系ストックフローの将来シナリオ分析
○松井健吾，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-24 都市計画の変遷と建設系マテリアルストック・フローとの関係性
○佐藤大起，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-25 静脈系インフラ連携によるバイオガス回収計画の立案と評価：兵庫県農村域を対象として
○藪口京介（大阪大学），中久保 豊彦（お茶の水女子大学），東海明宏（大阪大学）

P-26 一都三県を対象とした建築物・インフラストラクチャーの変遷に関する基礎的研究
○山下剛弥，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-27 建設資材の地域循環圏形成に関わるフライアッシュの多様な地域循環利用オプションの検討
○木下卓大，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-28 キャッサバ加工残滓のリサイクルシステム構築のための物質収支解析と再資源化技術評価
○金井亮太，村上　遼，小原俊一，伊藤菜津生，藤江幸一（横浜国立大学）

P-29 島外依存と環境負荷の低減を目指した宮古島内バイオマス残滓循環システムのデザイン
○伊藤菜津生，三ヶ尻智晴，田村修一（横浜国立大学），橘　隆一（東京農業大学），藤江幸一（横浜国立大学）

P-30　鉄軌道輸送システム整備に関わる経年マテリアルストック・フロー分析
○金城鐘顕，吉田圭介，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-31　自動車の燃費改善によるリバウンド効果の推定
○阿部達也（早稲田大学），松本　茂（青山学院大学），有村俊秀（早稲田大学），岩田和之（高崎経済大学）

P-32　気候変動適応策の支援に向けたマルチプルリスクの DALY 換算評価：ベトナムを対象として
○赤坂直人（大阪大学），中久保豊彦（お茶の水女子大学），東海明宏（大阪大学）

P-33　生産地による食品リスク認知構造の違いの把握と個人の特性による影響
○白井浩介，栗栖　聖，花木啓祐（東京大学）

P-34　地震災害を想定した化学物質流出による浄水場の給水機能への影響評価：淀川水系のレジリエンスに注目して
○多田悠人（大阪大学），中久保豊彦（お茶の水女子大学），東海明宏（大阪大学）

P-35　室内で使われる化学物質の吸入曝露を考慮したリスクスクリーニング手法 ― 殺虫・防虫剤を例として ―
○富澤茉佑香，高橋裕美子，小林　剛，亀屋隆志，藤江幸一（横浜国立大学）

P-36　室内環境中に含まれる有機リン系及び臭素系難燃剤の網羅的解析
○中山勇人，三宅祐一，雨谷敬史（静岡県立大学）

P-37　河川水における半難揮発性工業化学品分解生成物の環境中残留性調査
○鈴木拓万, 三保紗織，亀屋隆志（横浜国立大学）

P-38　農薬環境変化体の環境モニタリング～親農薬と変化体のリスク比較～
○橋本扶美，有島由紀子，高梨啓和，中島常憲，大木　章，上田岳彦，門川淳一（鹿児島大学），宮本信一，石川英律（いであ（株））

P-39　異なる地域で栽培された農産物及び土壌，河川水中の多元素濃度分析
猶原　順，○林　　愿（岡山理科大学）

P-40　駿河湾の食物網における有機汚染物質の生物濃縮実態
○ Vo Thi Thanh Van，坂田昌弘，王　　斉，三宅祐一，光延　聖，雨谷敬史（静岡県立大学）

P-41　生態系プロセスモデルへの森林施業・密度管理の実装とそれを用いた森林生態系サービス評価
○古林知哉，町村　尚，宮内達也，近藤翔伍，松井孝典（大阪大学）

P-42　多摩川源流域における気象・地形・植生の変遷に伴う年蒸発散量の変化
○佐藤博紀，西川修平，橘　隆一，福永健司（東京農業大学）

P-43　富士北麓地域におけるササラダニ類の多様性調査
○杉原実乃佳，黒部　楓，中澤さくら，深澤成美，前田利佳，椚　唯夏，手塚紗英，谷村那子，山本紘治（山梨英和高等学校）

P-44　建設部門の低物質・低炭素化に向けたセメントのマテリアルストック・フロー分析
○稲垣　空，松井健吾，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-45　用途地域の違いによる都市構造物の物質代謝特性に関する基礎的研究　4d-GIS を用いた和歌山市中心部におけるケーススタディ
○野中一鴻，青柳淳之介，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-46　高頻度検出される医薬品の分析　―PRTR 物質一斉検出との比較―
○大橋拓未，飯束敏泰，鈴木拓万, 三保紗織，亀屋隆志（横浜国立大学）

P-47　人工甘味料と工業化学品の一斉固相抽出分析法の検討
〇飯束敏泰，大橋拓未，鈴木拓万，三保紗織，亀屋隆志（横浜国立大学）

P-48　可溶化菌を用いた BDF 排水処理の確立
〇渡邉励人（鈴鹿高等工業専門学校），中道隆広（長崎総合科学大学），甲斐穂高（鈴鹿高等工業専門学校），石橋康弘（熊本県立大学）

P-49　土壌生息酵母を利用した廃棄物からの土壌改質材生産に関する研究
〇田中柚衣，中込優花，辻ひなの，山本　連，御園生真美（山梨英和高等学校），松本美穂，柳場まな，長沼孝文（山梨大学）

P-50　高速道路整備に関わる草木資源の有効利用ポテンシャル評価
〇小野　聡，宮川結衣，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

企画シンポジウム

【1 日目】

シンポジウム -1　9 月 7 日（月） A 会場（U3 棟 1 階） 9：30 ～ 12：00

「地域の持続可能性を支える資本ストックの未来を考える」

プロジェクト名：JST/RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域
「多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保」

オーガナイザー　倉阪秀史（千葉大学）教授
松橋啓介（国立環境研究所）室長

挨　　拶：倉阪秀史（千葉大学）

趣旨説明：JST/RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域の研究プロジェクト「多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保」（研究代表者：倉阪秀史）の研究内容を踏まえて，地域における資本ストックの持続可能性を確保するための取り組みを討議する。具体的には以下の報告を予定している。

講 演 者：①「地域ストックの将来投影：背景・方法・試算結果」
佐藤　峻（千葉大学）技術補佐員

②「各種資本ストックの市町村比較」
倉阪秀史（千葉大学）教授

③「市原市での資本ストック配置の将来シナリオ」
松橋啓介（国立環境研究所）室長

④「地球温暖化が自然資本ストックに及ぼす影響」
李　　想（千葉大学）講師

⑤「リソースジェネレータを用いた社会関係資本の把握」
栗島英明（芝浦工業大学）准教授

⑥「市原未来ワークショップにおける中高生熟議の経験」
宮崎文彦（千葉大学）特任研究員

シンポジウム -2　9 月 7 日（月） D 会場（U2 棟 2 階） 9：30 ～ 12：00

「温暖化対策の新しい排出削減メカニズム：二国間クレジット制度を中心とした経済分析と展望」

プロジェクト名：環境省環境経済の政策研究「新たな市場メカニズムの国際比較及び二国間クレジットメカニズムの排出削減効果等の分析」

オーガナイザー　有村俊秀（早稲田大学）教授
杉野　誠（山形大学）　准教授

挨　　拶：有村俊秀（早稲田大学）

趣旨説明：2015 年末にパリで開催される COP21 に向け，各国が削減目標を提示しており，温暖化対策としてグローバルな排出削減が求められている。中でも，限界削減費用の低い途上国での排出削減が求められている。クリーン開発メカニズムは一定の成功を収めたが問題点があり，新しい国際的な排出量削減のメカニズムの必要性が認識されてきた。そこで，環境省の第Ⅱ期『環境経済の政策研究』採択課題「新たな市場メカニズムの国際比較及び二国間クレジット制度の排出削減効果等の分析」では，日本が提唱してきた二国間クレジット・メカニズム（JCM）や，欧州の提案してきたセクター別クレジット・メカニズム（SCM）などの削減効果や経済効果・影響について検討してきた。また JCM については，企業の参加の視点からも分析を行った。さらに国連にて進められている森林保全による温室効果ガス削減の手段として REDD プラスについても現状を分析した。本シンポジウムでは，JCM および SCM の経済分析と企業調査の分析の成果について紹介し，今後の国際的な排出削減メカニズムについて議論を行う。

講 演 者：①「新しい国際的な削減メカニズムの動向」
有村俊秀（早稲田大学）教授
②「二国間クレジット制度による経済効果・削減効果に関する分析」
杉野　誠（山形大学）准教授
③「応用一般均衡モデルによる Sectoral Credit Mechanism の分析」
武田史郎（京都産業大学）教授
④「企業から見た二国間クレジット制度の課題と企業自身の取り組み」
井口　衡（跡見学園女子大学）助教
⑤「二国間クレジット制度（JCM）の現状について」
粕谷泰洋（一般社団法人　海外環境協力センター）
総合討論

シンポジウム -3　9 月 7 日（月） E 会場（U2 棟 3 階） 9：30 ～ 12：00
「環境インフラの連携による廃棄物からのエネルギー回収」
オーガナイザー　吉田　登（和歌山大学）教授
中久保豊彦（お茶の水女子大学）助教
挨　　拶：吉田　登（和歌山大学）
趣旨説明：一般廃棄物中のバイオマスや汚泥を集約処理する環境インフラ（ごみ焼却場，下水処理場）は，我が国における資源循環の形成や低炭素社会を支えるエネルギー回収拠点として重要な役割を担っている。環境インフラからのエネルギー回収の最大化を図る上では，各施設間，各環境インフラ間，さらに産業インフラとの連携が欠かせない。本シンポジウムでは，低炭素社会や人口減少などの将来社会変化をふまえ，環境インフラの連携により廃棄物からのエネルギー回収をめざすいくつかの研究成果を報告し，これをもとに廃棄物からのエネルギー回収を図るための環境インフラ連携のあり方について議論を行うものである。
講 演 者：①「インフラ連携による廃棄物エネルギー回収の可能性と受容性」
吉田　登（和歌山大学）教授
②「下水処理施設とごみ焼却施設の連携を対象とした環境性評価」
中久保豊彦（お茶の水女子大学）助教
③「将来人口の変化を考慮した環境インフラ更新・再編の方向性」
山本祐吾（和歌山大学）准教授
④「更新時期を踏まえたごみ焼却施設の連携・再編によるエネルギー回収の評価」
尾崎　平（関西大学）准教授
総合討論
司　　会：吉田　登（和歌山大学）

シンポジウム -4　9 月 7 日（月） A 会場（U3 棟 1 階） 14：00 ～ 16：00
「資源価値を考慮したストック・フロー指標体系の構築」
プロジェクト名：環境省環境研究総合推進費 1-1402
「資源価値を引き出す次世代型マテリアルストックに関する研究」
オーガナイザー　谷川寛樹（名古屋大学）教授
奥岡桂次郎（名古屋大学）助教
挨　　拶：谷川寛樹（名古屋大学）
趣旨説明：人間社会が枯渇性資源を使う限り，その資源価値を最大限に引き出す“もの使い”を社会に根付かせることが重要である。社会を支える社会基盤施設や建築物といったストックは，老朽化したストックが将来の負債ともなりかねない。今後のストック整備の行方が次世代社会の骨格を作り上げることから，ストックの戦略性は重要である。本シンポジウムでは，既存のマテリアルフロー分析に加えて，社会に滞留する資源を対象にするマテリアルストックに焦点を当て，資源の価値を最大限に引き出せる社会のあり方を多面的に討論する。フロー指標を補完するストック指標体系の構築を目

指し，社会が資源価値を引き出せているかを計測する仕組みについて一連の研究報告を行うものである。

講 演 者：①「資源価値を引き出す次世代マテリアルストックに関する研究」
谷川寛樹（名古屋大学）教授
森口祐一（東京大学）教授
橋本征二（立命館大学）教授
南斎規介（国立環境研究所）室長

②「将来需要と二次資源の利用可能性を考慮した鉱物資源消費の特性化」
横井崚佑（東京大学）博士前期課程
中谷　隼（東京大学）助教
森口祐一（東京大学）教授

③「引張機能量による普通鋼ストック量の評価手法の構築」
松井大輔（東京大学）博士前期課程
醍醐市朗（東京大学）特任准教授

④「リサイクルの拡大が資源の供給構造全体に及ぼす影響」
小西紘平（東京大学）博士前期課程
村上進亮（東京大学）准教授

⑤「Assessment of global secondary copper reserves」
Kyaw Nyunt Maung（立命館大学）博士後期課程
橋本征二（立命館大学）教授

⑥「リモートセンシングデータを用いたアジア都市の空間活動量の変遷に関する指標化」
黒田将平（名古屋大学）博士前期課程
奥岡桂次郎（名古屋大学）助教
谷川寛樹（名古屋大学）教授

総合討論

シンポジウム -5　9月7日（月） D会場（U2棟2階） 14：00 ～ 16：30

「水・エネルギー・食料連環問題の解決に向けたトランスディシプリナリ―的アプローチ：福井県小浜市におけるケーススタディ」

プロジェクト名：総合地球環境学研究所 未来設計プロジェクト
「アジア環太平洋地域の人間環境安全保障――水・エネルギー・食料連環」
オーガナイザー　馬場健司（法政大学）教授
増原直樹（総合地球環境学研究所）プロジェクト研究員

挨　　拶：馬場健司（法政大学）

趣旨説明：本プロジェクトの目的は，水とエネルギーおよび食料の連環による複合的な地球環境問題（持続可能な開発，ネクサス（連環)･イシュー）に対し，環境ガバナンス（管理）の構造と水･エネルギー･食料政策の最適化をとおして，持続可能な社会のあり方を提示することである。本シンポジウム企画では，小浜市を事例として，科学と社会との共創（環境ガバナンス）を踏まえて，水とエネルギー連環の解明，水と食料（水産資源）連環の解明を通して，ステークホルダーと合意形成および統合指標と連環解析の各サブグループから，トランスディシプリナリ―的アプローチによる研究成果を報告し，問題解決に向けた政策の具現化を目指して，ゲストコメンテーターからインプットを受けつつ議論を行う。

講 演 者：①「持続可能な社会に向けた水・エネルギー・食料連環の環境ガバナンス」
谷口真人（総合地球環境学研究所）教授

【自然科学・工学的アプローチ】

②「小浜平野における自噴井湧出機構と地中熱利用について」
宮下雄次（神奈川県温泉地学研究所）主任研究員
濱元栄起（埼玉県環境科学国際センター）主任研究員

山田　誠（総合地球環境学研究所）プロジェクト研究員
田原大輔（福井県立大学）准教授

③「小浜湾における地下水と沿岸水産資源の連環過程：地下水の量と質が及ぼす潜在的影響」
杉本　亮（福井県立大学）講師

④「水循環オントロジーからみた水・エネルギー・食料連環」
熊澤輝一（総合地球環境学研究所）助教

【人文・社会科学的アプローチ】

⑤「地方都市の自噴井クラブと湧水ユーザー」
王　智弘（総合地球環境学研究所）プロジェクト研究員

⑥「地下水資源についての関心とソーシャルネットワークの関連性に関する考察：
福井県小浜市を事例に」
木村道徳（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）研究員

⑦「住民意識をベースにした問題解決の可能性：
小浜とカリフォルニア州パハロ・バレーの地域間比較を中心に」
増原直樹（総合地球環境学研究所）プロジェクト研究員

コメント（未定）
総合討論

シンポジウム -6　9月7日（月） E会場（U2棟3階）14：00 ～ 16：30
「化学物質管理の今後」 化学物質管理戦略研究会企画シンポジウム
オーガナイザー　東海明宏（大阪大学）教授
小林　剛（横浜国立大学）准教授

挨　　拶：亀屋隆志（化学物質管理戦略研究会，横浜国立大学）

趣旨説明：多様な化学物質のリスク管理のために，国際的には2002年環境開発サミットで「化学物質が，人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化する方法で使用，生産されることを2020年までに達成する」と記され，その実現のために国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ（SAICM）がまとめられて，様々な取り組みが進められている。日本でも関連法規が改正されて取り組まれているが新たな課題も見えてきている。

本シンポジウムでは，将来を見据えて，最前線で検討・研究をする専門家に講演いただき理解を深めるとともに，今後の研究課題等について議論したい。基調講演として，中杉修身名誉会員から「化学物質リスク管理施策の課題と今後の方向」についてご講演頂き，4名の行政や研究者から最新動向や研究トピックス，今後検討すべき課題などに関してご講演いただき，総合討論を行う。

基調講演：①「化学物質リスク管理施策の課題と今後の方向」
中杉修身（元上智大学），環境科学会名誉会員

講 演 者：②「化審法のスクリーニング評価の進捗及び課題への対応」
大西洋平（製品評価技術基盤機構化学物質管理センター）主任

③「大規模災害時における化学物質による環境リスクの低減対策について」
西村洋一（大阪府環境保全課化学物質対策グループ）課長補佐
池田　俊（大阪府環境保全課化学物質対策グループ）主査

研究トピックス

④「ライフサイクルを射程に据えた今後のリスク評価の枠組みの展望～自主的なリスク管理のための高次ツールを用いた作業者曝露評価手法の開発～」
東海明宏（大阪大学）教授

⑤「多様な化学物質の環境モニタリングと課題 」
亀屋隆志（横浜国立大学）准教授

総合討論

司　　会：小林　剛（横浜国立大学）
東海明宏（大阪大学）

【2 日目】

シンポジウム -7　9 月 8 日（火） A 会場（U3 棟 1 階） 9：30 ～ 12：00

「レジリエントシティ政策モデルの開発とその実装化」

プロジェクト名：環境省環境研究総合推進費 1-1304

「「レジリエントシティ政策モデル」の開発とその実装化に関する研究」

オーガナイザー　竹内恒夫（名古屋大学大学院環境学研究科）教授

杉山範子（名古屋大学大学院環境学研究科）特任准教授

挨　　拶：竹内恒夫（名古屋大学）

趣旨説明：近年，気候変動，大規模自然災害など短期的，中長期的な様々なリスクに対応しうるレジリエントな都市の実現，自律的なエネルギーシステムや減災を目指す地域づくりが求められている。地域のエネルギー自律と両立する緩和策と，防災･減災の視点をも包括する適応策を統合する地域像を「レジリエントシティ」と規定し，①レジリエントシティ概念の理論的枠組みを基にした政策ツールの開発と政策モデルの構築，②水循環・資源循環などの都市の環境システムのレジリエンスの評価方法・施策等，③レジリエントシティづくりに不可欠な地域エネルギー政策（エネルギー自治）を確立するための制度設計等の提案，④復興や減災の取組みを進める地域への政策反映とアジアへの展開，について議論する。

講 演 者：①「レジリエンス指標を巡る行政と市民のフレーミングギャップ」

馬場健司（法政大学地域研究センター）特任教授

②「災害による地域社会リスクの評価～ 9 都市における質問紙調査結果より～」

小杉素子（静岡大学）特任准教授

③「公開統計情報に基づく都市のレジリエンス性評価」

川久保俊（法政大学）助教

④「資源循環レジリエンスの枠組みと評価の検討」

松野正太郎（名古屋大学）特任講師

奥岡桂次郎（名古屋大学）助教

⑤「地域のエネルギーレジリエンス政策能力向上プログラムの開発」

杉山範子（名古屋大学）特任准教授

⑥「都市リスク認知と施策の充実度からみた自治体のレジリエンス評価手法の検討」

岸本紗也加（大阪大学大学院工学研究科）特任研究員

⑦「都市ライフラインのレジリエンス評価：枠組みの設計と水循環への適用」

中久保豊彦（お茶の水女子大学）助教

⑧「フィリピン・セブ市におけるコミュニティベースのレジリエントシティ構築に関する分析：事例と展望」

Premakumara Jagath Dickella Gamaralalage

（地球環境戦略研究機関北九州アーバンセンター）主任研究員

総合討論

シンポジウム -8　9 月 8 日（火） D 会場（U2 棟 2 階） 9：30 ～ 12：00

「バイオマス残渣リサイクルによるプランテーションの持続性と生産性向上の検証」

プロジェクト名：科学研究費補助金基盤研究（S）

「プランテーションのダイナミックモデル開発による持続性評価と地域システムへの展開」

オーガナイザー　藤江幸一（横浜国立大学）教授

橘　隆一（東京農業大学）准教授

挨　　拶：藤江幸一（横浜国立大学）

趣旨説明：熱帯地域は，一次生産に好適な高温多湿な気候条件に恵まれているが，同時に土壌劣化の速度も速い。今後，環境負荷が低く，かつ持続可能な生物生産を達成するには，生産，加工プロセスにおける省エネルギー，リサイクルだけでなく，生産と加工を有機的にむすびつけた生産システムを構築する必要がある。そこで，栽培，加工，排水・廃棄物処理等を包含するプランテーションに対し

て，栽培管理やバイオマスリサイクルの導入による動的変化を予測するシステムダイナミクスモデルを，スマトラ島を中心とした調査と各種実測による解析結果に基づいて開発した。1）土壌有機物の減少に伴う地力低下がもたらす収量低下を持続的に抑制する方策の提示，2）バイオマス残渣，高濃度排水の適正処理・リサイクルの導入による環境負荷低減効果とプランテーション内外へのバイオマス残渣とエネルギー供給の可能量評価，そして，3）バイオマスを基盤とした地域自立システムの設計・評価に活用できる手法と情報を提供できる仕組みを整備する。このことによって，プランテーションと地域の連結による持続的発展に貢献する。

講 演 者：①「物質収支解析に基づくプランテーションの課題抽出と対策に向けて」
藤江幸一（横浜国立大学）教授
橘　隆一（東京農業大学）准教授
②「一次生産の持続可能性のための土壌管理」
金子信博（横浜国立大学）教授
③「スマトラ南部の土壌生物多様性の喪失」
南谷幸雄（横浜国立大学）博士研究員
④「保全農法がもたらす土壌微生物群集の多様性と機能」
三浦季子（横浜国立大学）博士研究員
（現：東京農工大学 特任助教）
⑤「バイオマス循環利用のシステムダイナミックモデル」
後藤尚弘（豊橋技術科学大学）准教授
総合討論

司　　会：藤江幸一（横浜国立大学）
金子信博（横浜国立大学）

シンポジウム -9　9月8日（火） E会場（U2棟3階） 9：30 ～ 12：00

「室内環境中の臭素系・リン系難燃剤の現状と課題」

プロジェクト名：厚生労働科学研究費補助金「室内環境中の未規制物質の網羅的解析に関する研究」
オーガナイザー　雨谷敬史（静岡県立大学）准教授
三宅祐一（静岡県立大学）助教

趣旨説明：1990年代に社会問題化したシックハウス・シックスクール問題は，建築基準法によるホルムアルデヒドなどの使用制限，13種の化学物質の室内環境指針値の策定により改善されたが，未規制物質の問題が残っている。特に，電気電子製品やカーテンなどの身近な製品に使用されている難燃剤は，難分解性でかつ蓄積性が高い物質が多く，その一部はヒトへの有害性が指摘されている。また，規制に伴い，次々と新たな難燃剤が開発・使用されており，それらがどのような有害性を示し，どのように曝露されているのかを，本シンポジウムを通して考えてみたい。

挨　　拶：雨谷敬史（静岡県立大学）

講 演 者：①「室内環境中の未規制物質の網羅的解析に関する研究について」
雨谷敬史（静岡県立大学）准教授
②「室内で使われる化学物質のデータベース構築と難燃剤で懸念される曝露経路」
小林　剛（横浜国立大学）准教授
③「市販カーテンに含有する難燃剤の実態調査及び難燃剤の放散挙動について」
久米一成（東京都市大学）客員教授
④「市販カーテン中の新規難燃剤の分析法開発と含有量調査」
三宅祐一（静岡県立大学）助教
⑤「未規制難燃剤の毒性評価」
小川久美子（国立医薬品食品衛生研究所）部長

シンポジウム－10　9月8日（火） A会場（U3棟1階） 13：30 ～ 16：15

2015年学術賞記念シンポジウム

「環境政策研究者は社会変革をもたらしうるか」

オーガナイザー　中口毅博（環境自治体会議）事務局長・（芝浦工業大学）教授
山本芳華（平安女学院大学）准教授

挨　　拶：中口毅博（環境自治体会議・芝浦工業大学）

趣旨説明：本シンポジウムは，「持続可能な地域環境政策に関する研究」の業績によりオーガナイザーの中口に授与された学術賞の受賞記念として企画したものである。多くの環境政策研究者は行政計画策定や市民の取り組みに関与してきたが，「“ガクシャ”さんの言っていること」と受け止められがちで，研究成果や提言が社会変革まで至るケースは稀である。これに限界を感じた“実践する”研究者（受賞者を含む）は，一歩引いて客観的に諸事象を見るという学界の常識との狭間で，長年苦悩しているのが現状である。そこで，行政やNGO･NPOに足場を置く研究者の実践事例をもとに，環境政策研究者は社会変革を起こすべきなのか，すべきとすれば何をすべきかを議論したい。

講 演 者：①「アセスメントは持続可能な社会の作法」（環境計画・政策，参加と合意形成の視点より）
原科幸彦（千葉商科大学）教授・（東工大）名誉教授

②「持続可能な社会・地域を創る環境教育－ゆっくりとラディカルに－」（環境教育・ESDの視点より）
小澤紀美子（東京学芸大）名誉教授

③「ベトナム・ダナン市における地域エネルギーマネジメントシステム構築の軌跡」（環境マネジメントシステム，地域政策の視点より）
山本芳華（平安女学院大学）准教授

④「社会活動における環境政策研究の貢献～NPO気象キャスターネットワークとESD子ども会議の経験から」（気候政策，エネルギー政策の視点より）
杉山範子（名古屋大学）特任准教授

⑤「持続可能な社会システムに関する研究の地域政策への適用プロセス」（持続可能な社会システムの視点より）
岩川貴志（（特非）循環共生社会システム研究所）研究員

⑥「アクションリサーチや参与観察による環境政策・環境教育の実践と評価」（環境政策，地域創生政策の視点より）
中口毅博（環境自治体会議）事務局長・（芝浦工業大学）教授

シンポジウム－11　9月8日（火） D会場（U2棟2階） 13：30 ～ 16：00

「低炭素型ライフスタイルの実現に向けた都市・地域環境に関する各分野の事例」

プロジェクト名：環境研究総合推進費 2RF-1303
「低炭素と経済活性化を両立する生活・行動様式と地域環境デザイン方策の提案」

オーガナイザー　平野勇二郎（国立環境研究所）教授
松野正太郎（名古屋大学）特任講師

挨　　拶：平野勇二郎（国立環境研究所）

趣旨説明：低炭素型ライフスタイルを実現するためには，都市や地域における生活行動パターンとCO_2排出と結び付けて検討する必要がある。とくに，社会全体からのCO_2排出を削減するためには，生活者の直接的なエネルギー消費だけでなく，製品やサービスの消費により誘発される間接的なCO_2排出も含めて検討する必要がある。また，それを実現するためには，CO_2削減だけではなく地域の居住環境や地域経済への影響など，様々な観点から社会システム全体を見渡すことも必要である。本シンポジウムジウムではこうした問題について考えるため，様々な観点から低炭素型ライフスタイルの実現やそのための都市・地域の環境創生の方策について議論する。

講 演 者：①「ライフサイクルCO_2評価に基づく低炭素型ライフスタイルの検討」
平野勇二郎（国立環境研究所）主任研究員

②「地域社会動態モデルにおける低炭素型ライフスタイルに関する研究」

吉田友紀子（大阪大学）講師

③「地域活性化と環境共生を両立する低炭素コミュニティの実現手法の検討－登戸地区でのまちづくり事例－」

大西暁生（東京都市大学）准教授

④「住宅エネルギー消費決定要因の変遷」

山口容平（大阪大学）准教授

⑤「居住密度に応じた都市圏の建築物需要量と二酸化炭素排出量の将来推計」

奥岡桂次郎（名古屋大学）助教

⑥「農山村における地域再設計を視野に入れた低炭素化対策に関する研究」

鳴海大典（横浜国立大学）准教授

⑦「地域特性に応じた分散型エネルギーシステムの最適設計手法」

戸川卓哉（国立環境研究所）研究員

⑧「4d-GIS を用いた建築物ストック・フロー量の推計と将来予測」

杉本賢二（名古屋大学）特任講師

⑨「地域における低炭素型ライフスタイル普及に向けた経済学からの一考察」

渡邉　聡（鈴鹿大学）講師

⑩「低炭素社会シナリオから見るライフスタイル変化の効果と影響」

五味　馨（国立環境研究所）研究員

シンポジウム－12　9月8日（火）E会場（U2棟3階）13：30 ～ 16：00

「地域・伝統知と科学知の融合を活かしたアジア太平洋地域における社会・生態システムの将来シナリオとガバナンス」 実行委員会企画シンポジウム

プロジェクト名：科学技術振興機構フューチャー・アース構想の推進事業「地域・伝統知と科学知の融合を活かしたアジア太平洋地域における社会・生態システムの将来シナリオとガバナンス」

オーガナイザー　齊藤　修（国連大学）学術研究官
谷川寛樹（名古屋大学）教授

挨　　拶：齊藤　修（国連大学）

趣旨説明：将来予想される社会経済及び地球環境の変化により，国内外でかつてない規模の生物多様性・生態系への影響が懸念される。こうした影響を未然に回避・緩和するには，自然的要因と社会経済的要因を包含した将来予測シナリオの構築とそれと連動した生態系サービスと人間の福利の予測評価モデルの確立が不可欠である。本シンポジウムでは，アジア太平洋地域を対象として，生物多様性と生態系サービスに関する将来シナリオ研究を縦軸に，伝統的な知識・技術と科学知・技術との融合システムの検討を横軸にして，多様な主体との連携で自然資本の重層的なガバナンス構築と社会実装をめざすための研究課題と研究アプローチ・手法について研究発表するとともに，行政・民間企業・NGO を含めた関係主体との協働のあり方について議する。

講 演 者：①「アジア太平洋地域の生態系評価と将来シナリオ分析」

齊藤　修（国連大学大学）学術研究官

②「アジア太平洋地域の生物多様性・生態系サービスの変化要因
－ IPBES の概念枠組にもとづく既存アセスメントの分析－」

橋本　禅（京都大学）准教授

③「アジア太平洋地域における生態系サービスと人間の福利への影響－評価モデルのレビューによる特徴の抽出－」

庄山紀久子（国連大学）研究員

④「専門家主導の科学知から参加型の重層的なガバナンス構築と社会実装に向けて；パラダイムシフトと日本・アジアの事例から」

香坂　玲（金沢大学）准教授
内山愉太（金沢大学）博士研究員